

か ど ひいらぎ
香童の柎

No. 11

壬生町立稲葉小学校 学校便り

平成29年7月14日

文責：校長 廣田 昌英

一人一人を見つめて

クラス内での学校生活に、一人一人の児童は満足しているのか、実は不満があるのか、そのようなことを調べる手段の一つとして「Q-Uテスト」というものがあります。有効な手段であり、数年前から本校を含めたほとんどの学校で実施しているものなのですが、実施しておしまい、という学校が残念ながら少なくないようです。本校は違います。実施結果を基に学級経営計画を練り、全校体制で一人一人を励ましています。その音頭を取っているのが教務主任の松本直美先生です。たいへんな勉強家で教育相談等に造詣が深く、常に我々教職員をリードしてくれています。

そんな松本先生のお勧めで、本校図書室には「マンガで分かる世の中のルール」という本があります。「なぜ、あいさつするの?」とか「なぜ、明日の準備をするの?」などの他、私の耳が痛くなり、優しい鷺嶋先生がいる保健室に逃げ込みたくなるようなルールまで楽しく紹介している本です。是非お子様が借りた本を又借りして(?)読んでみてください。かなり楽しい(マンガ)本です。

松本先生、こういう本、もっと紹介してくださいね。

ちゃんと話を聞いてね!

町探検の準備を進めていた2年生の教室を覗きました。関口先生が懸命に注目させようと試みているんですが、子ども達は相変わらずです。突然、まったく関係のない話を関口先生に向かって得意気に話し出す子。消しゴムを、それはそれは丁寧に細かく切り分けてる子。椅子に座っていられずに、机を抱きかかえる子。などなど。

そんな中、関口先生が「人の話は耳で聞くだけでなく、頭に刻んでくださいね」と、話しました。その瞬間、子ども達は手刀を作って自分の頭をたたき出しました。なるほど、頭に刻んでるんですね。

苦笑いの関口先生、今度は「心にも刻んでください」と言ったからさあたいへん、子ども達はいっせいに手刀で自分の胸をたたき出しました。そう、心に刻んでるんです。

あきれて笑っちゃいました。そして心の中で大声で応援しました。頑張り関口! 我慢だ関口! 負けるな関口!

でも、あきれながらも分かったことが一つありました。実は2年生、人の話をちゃんと聞いているんですね。

いつまでもお願いします

本校を最後に御退職なされた生井トシ子先生、引き続き現在は壬生町採用の教員助手として、主に4年生の子ども達の学校生活を支援してくださっています。もちろん、さりげなく若手職員にも授業を進める上でのアドバイスをしてくださいます。何も言わなくても子ども達と教職員のかゆい所に手を伸ばし、優しく搔いてくれる貴重な存在です。タワシを擦りつけるようなことはありません。本当にありがたい存在なんです。

ところで、壬生町町民活動支援センター「みぶりん」だより6月号に目を通して見ると、「壬生民話ふくべの会」の紹介写真に見慣れた姿が写っているではありませんか! そう、生井先生が写っていたのです。御本人によると、尊敬する先輩の先生のもとで語り手の勉強を始めたんだそうです。

《裏面に続きます》

それを聞いて私はハッと気付きました。実は生井先生、今度は民話の語り手として本校児童を楽しませようとしているのではないのでしょうか？う～ん、どんだけ本校に貢献してくださるのでしょうか。生井先生には頭が上がりません。今後ともよろしくお願いいたします。

最近の授業

4年生の国語では、「かける」という動詞を使った短文を、辞書を用いて調べてみました。「音楽をかける」「月が～」「漢字が～」「壁に～」「橋を～」「火に～」「塩を～」などたくさんあるんですね。驚きました。子ども達もとっても楽しんでいました。でも、私個人はこういう楽しい勉強方法があることにも驚いています。私が小学生の頃の授業なんか楽しい記憶はほとんどありません。ただ暗記するだけの、灰色の記憶しかないんです。

そういえば6年生の社会の授業では、「貴族と農民の社会に、なぜ武家が現れたのか？」を勉強してました。私が小学生の頃は、「貴族」「武家」「農民」を暗記するだけが社会の授業だったのに…。今は思考力を鍛える授業が主流なんですね。

みなさん、子どもに命令するだけでなく、どんどん判断させてみてくださいね。本校で鍛えた思考力、判断力、表現力、ぜひ、家庭や地域活動でも試してみてください。

謎ではなくなった記号？

ランチルームで給食の配膳が終わろうとする頃、配膳台付近に大きな謎の記号が掲げられます。↑と↓です。はあ？何？給食主任の木村志乃先生に意味を教えてくださいました。なるほど、↑は、「もっと量を増やしたい人、来てください」、↓は「量が多いので減らしたい人、来てください」という意味なんだそうです。こうして残飯がでないように工夫してるんですね。

ある日、木村先生が印刷室でこそこそ(?)作業をしていました。何をしているのか尋ねたら、.....感心しちゃいました。

何気ない、かつ、とてもわかりやすい作戦でした。普段から常に学校生活を改善しようとしてくれてるんですね。おかげでもうすぐ、**スープ** ↑ とか **やさしい** ↓ という記号が掲げられるようになります。木村先生、ファインプレーです。みなさん、意味、分かりますよね？

面倒(?)なチャンス

ある朝、1年生の教室をのぞくと、子ども達が口々に「今日は3時間目に折り紙だよ！」って言うんです。何のこっちゃと思って3時間目に教室をのぞきました。図工でした。折り紙をきれいに折ってハサミを入れ、それを広げて模様を楽しんでいるようです。

しかし、大変なのは担任の興野先生ただ一人。一人の子どもの「先生、見て！」に、「あら、きれいなのができたじゃない！」って応えたが最後、18人全員が「先生、見て、見て！」攻撃です。それにいちいち丁寧にコメントする興野先生に、忍耐力さえ感じました。

みなさんも子どもにせがまれたら、手を休めて見てやってくださいね。話を聞いてやってくださいね。子ども達が安心感と自信を身に付ける、最高のチャンスです。

もっと他にいない？

趣味と実益を兼ねた3人目の人材を発見しました。町費事務職員の高山緑さんです。本校に高山は2人いるので、私は緑さんと呼んでます。普段の緑さんは蔵書及び図書室の管理が主な仕事で、6月の読書旬間でも図書委員の子ども達と大活躍してくれました。また、町費の処理や県費事務職員の川島さんのお仕事の補助もしてくれています。けっこうマルチなんです。そして実は、緑さんは華道の経験者でもあったのでした。教頭先生が御持参くださった生花をはじめ、いろいろな花をきれいに花瓶に活けては、玄関などに飾ってくれているのです。学校としては超ラッキー！ってところです。

趣味と実益を兼ね備えちゃう職員、ありがたいですね。...もっといないかな？